

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
9 1	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
<b>題名 (原題/訳)</b>	
Relationship between ethanol consumption level and lifestyle status: excessive ethanol consumption can account for the prevalence of lifestyle-related diseases. アルコール摂取量と生活習慣との関係：多量飲酒が生活習慣病の有病率に与える影響について	
<b>執筆者</b>	
Yokoyama H.	
<b>掲載誌 (番号又は発行年月日)</b>	
Alcohol Clin Exp Res. 2005 Dec;29(12 Suppl):294S-7S.	
<b>キーワード</b>	
生活習慣病、エタノール、アルコール関連疾患、ブレスローの指標、インスリン抵抗性、HOMA 指数	
<b>要 旨</b>	
<p><b>背景・目的：</b> 生活習慣病といわれる、健康に良くない生活習慣によって引き起こされる疾患に対する予防方法や効果的な治療法の開発が特に先進国で必要とされている。そのためには、そのような症候群について明確に理解することが必要である。われわれの最近の研究により、インスリン抵抗性が生活習慣病の発症に関連しているということが明らかとなった。本研究の目的は、過剰なアルコール摂取が生活習慣病の原因であるかを明らかにすることである。</p> <p><b>方 法：</b> 30～65 歳までの日本人男性 519 人を対象に調査を行った。生活習慣についてはブレスローの 7 つの生活習慣に関して質問票で調査を行った。平均の飲酒量については追加の質問票で調査した。また、インスリン抵抗性については HOMA 指数を用いて推定した。</p> <p><b>結 果：</b> アルコール摂取量とブレスローの健康習慣の合計点数との間には負の関係が認められた。また、ブレスローの生活習慣の中で、好ましくない飲酒習慣と不適切な喫煙の間に関連が認められ、また「間食をしない」という生活習慣との間においても関連が認められた。</p> <p><b>結 論：</b> 不健康な生活習慣の人ほど、アルコールを多く摂取していた。過剰なアルコール摂取は生活習慣病の一つの原因であると思われる。生活習慣病の問題を解決するためにはインスリン抵抗性症候群に加えてアルコール関連疾患にも注意する必要がある。</p>	